武　一　中

URL:http://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

令和元年５月１５日
武蔵野市立第一中学校
学校だより３１－２号

「知足」のつくばい

校長　　中嶋　建一郎

今週末から３年生が訪れる京都に、龍安寺（りょうあんじ）というお寺があります。３年生は３日目のタクシー行動で見学を予定している班がいくつかあるようです。

この龍安寺は、石の庭、石庭が有名で、多くの観光客が集まってきます。白い砂が敷き詰められ、そこに 15 個の石が置かれているのですが、どの角度から見ても 14 個しか見ることができないように配置してあります。

そのお寺に「知足のつくばい」というものがあります。石庭を見ることができる広間「方丈」の反対側にあります。

「つくばい」とはお茶室に入る前に手を洗うために、水をためておく鉢のようなものです。神社やお寺の入り口で手や口を清めますが、あれと同じような役目のもので、小さいものです。

その「つくばい」にこのような文字が刻まれています。上から見た図を用意しました。この四角の中に水が入っています。この文字に注目してほしいのですが、上の五に口で、「吾」、「われ」、右が口にとりで、「唯」、「ただ」、下が口に付けたして、「足」、あし、ですが「たる」と読みます、左が矢偏に口で、「知」、ち、「しる」と読みます。4 文字を続けると「吾（われ）唯（ただ）足るを知る」となります。

この意味は「足ることを知ること。自分の持ち分に満足し、欲張らないこと」、「お金持ちでも満足できない人はできないし、たとえ貧乏でも感謝の心を持てば満足できる」、「満足することを知る人は、少しも不平不満の心を起こさないため、心に落ち着きがあり、不安がない」、他の言い方だと「隣の芝生は青く見える」という言葉がありますが、他人を羨んだり、分不相応のものを欲しがったり、手に入れられないものに対して不満を抱くのではなく、己を知り、自分を抑えて現状に満足することが出来る人は、常に満ち足りていて心がおだやかである、ということなどがあります。

初めに石の庭が有名だと話しましたが、「石庭の石が、一度に 14 個しか見ることができないことを不満に思わず、満足する心を持ちなさいという戒めの意味が込められている」という話もあります。

このような「足るを知る」という心の持ちようを知ってほしいと思い、今日は話をしました。「足るを知る」だから「知足のつくばい」というわけです。

一つ注意したいのは、「もう勉強なんてしなくていい、今の自分で十分だ」というのとは違います。自分を高める向上心は常に持ち続けてください。他人と自分を比較して自分にないもの、持っていないものを求め過ぎたり、流行や周囲の意見に惑わされて欲しがったりするのではなく、自分が本当に求めているもの、自分を高めること

裏面に続きます　→

に向かっていくことは大切です。「向上心」は持ち続けてください。

「知足」がどちらかと言うと自分のまわりにある物などの物質的なことに対する考え方であるのに対して「向上心」は自分の内面や能力に関するものです。

この違いも含めて、「知足」の考えをわかってくれたらと思います。

（５月１３日　朝礼講話より）

５年後の自分が今の自分に言いたいこと

「あの頃にもどりたいな」「あの頃にもどれたら、こんなことをするのにな」と考えたことはありますか。「ああ、昨日に戻れたらなぁ」というのもありますよね。

例えば、３年生だったら、先日の入学式を見て、「１年生に戻れたら、あの勉強をコツコツとやるのにな」とか、部活動に関連して「個人練習をもっとやっているな」とか、今だからこそ思うことがきっとあるのではないかと思います。

私も、もしも中学生にもどれたら、「英語の勉強をしっかりとやっているだろうな」と思います。

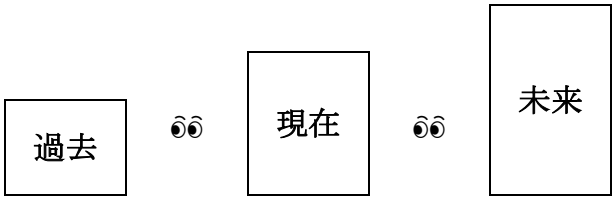
こうやって考えるのは、今の自分が過去の自分を思い出し、もしも戻れたら、こんなことをしたいな、と考えることです。時々、考えることがあるのではないでしょうか。

ここで、皆さんにチャレンジしてほしいことがあります。発想を変えるのです。今の自分は、未来の自分が戻りたいな、と思って戻ってきていると考えるのです。例えば、３年生なら、５年後の自分が、「ああ、中学３年の４月に戻れたらな」と考えて、今、戻ってきている、と考えるのです。そこで、次に考えるのが、５年後の自分は、今の自分に何をやっておけば良かったと思うのか想像するのです。

勉強でしょうか、友だちと仲良くすることでしょうか。これからある学校生活で何でももっと一生懸命やっておけば良かったということでしょうか。一人一人考えは違うでしょう。是非、想像してみてください。もちろん、１年後でもいいです。１０年後でもいいです。自分の１年後、１０年後を想像して考えてみてください。

でも、想像がつかないこともありますよね。その時は、ヒントをもらうことができます。１年後なら１年先輩に聞いてみるのです。「先輩は１年前に戻ったら、何をしますか？」「何が心残りですか？」きっと良いヒントがもらえるはずです。１０年後のヒントをもらう人を探すのは難しいでしょうが、家族や親戚、先生方に聞いてみるのもよいでしょう。

私も、５年後を想像し、その時の自分は、今の武蔵野一中の校長になってすぐの時期に何をやっておけば良かったと思うのかを考えてみます。まずは、やらない後悔「あれもこれもやっておけば良かった！」とならないようにいろいろチャレンジしてみたいです。



（４月２２日　朝礼講話より）

今号は文字が多くなってしまいました。週末から修学旅行です。次回は、そのことも記事にします。

＜学校だより１号の訂正＞

【平成３１年度の教職員の紹介】

施設管理：田中 辰郎　➡　下谷 一廣

※謹んで訂正いたします。